

鳥取県岩美郡岩美町

岩美町内遺跡発掘調査報告書 VI

(大谷地区・岩井地区)

2002.3

岩美町教育委員会

序 文

本町は、鳥取県の最東端に在り、兵庫県との県境に位置する人口約14,700人の町です。風光明媚な山陰海岸国立公園を擁し、国の天然記念物に指定された浦富海岸、国指定天然記念物のカキツバタ群落とともに、原始・古代遺跡も多く、歴史豊かな風土と自然に恵まれた環境にあります。

このようなすばらしい風景や環境を保存し、歴史・自然体験の場として活用していくことが、次代を担う青少年の育成にとっても重要なことであります。

今回の発掘調査は、岩美町岩井地区で計画されている岩井コミュニティセンターの建設、大谷地区で行われる県営ほ場整備事業に伴い、これらの工事予定地内の遺跡の有無、範囲を確認するための試掘調査であります。

岩井地区においては、通称「鬼の碗」と地元から親しまれている国指定史跡「岩井廃寺塔跡」に伴う岩井廃寺(弥勒寺)の試掘調査となりました。

岩井廃寺(弥勒寺)におきましては、昭和61年に、農地の区画整備事業に伴い心礎石に隣接する水田の調査をいたしましたが、瓦などの貴重な遺物は多く出土したものの、寺に関連した遺構の存在は明白に確認されませんでした。

このたび2地区の発掘調査では、岩美町教育委員会が主体となり、事業主体者をはじめ、地元関係者と綿密な連絡を取り合い調査を進めて参りました。

試掘調査が完了し、ここに簡単ながら一書をもって結果をご報告申し上げます。みなさまのご高覧に供し、ご批判・ご鞭撻を賜りたいと存じます。

最後に、現場で調査に携っていただいた皆様、ご協力、ご指導いただいた多くの方々や関係機関に心より深く感謝申し上げます。

平成14年3月

岩美町教育委員会
教育長 大黒 啓之

例 言

1. 本書は、平成13年度に岩美町教育委員会が、国庫及び県補助金を得て実施した岩美町内遺跡発掘調査（大谷地区・岩井地区）の報告書VIである。
2. 本遺跡の発掘調査は、鳥取県岩美郡岩美町大字大谷字岩崎、字岡畑および大字岩井字大野においてトレンチによる試掘調査を行い本報告書を作成した。
3. 地形図（第1図）は国土交通省国土地理院発行の50,000分の1の地形図の一部を利用した。
4. 本書で使用した方位は、第7図は磁北、その他の図では真北で、レベルは海拔標高である。
5. 出土遺物の整理及び本書の執筆・編集は中島伸二が行った。
6. 記録写真、実測図等は岩美町教育委員会が保管している。
7. 岩井地区の調査にあたり、独立行政法人 文化財研究所 奈良文化財研究所 文部科学技官 山中 敏史氏（埋蔵文化財センター 遺物調査技術研究室長）からご指導・ご教示を受けた。また2地区の調査にあたり下記の機関及び諸氏にご指導及びご協力をいただいた。

鳥取県教育委員会事務局文化課、鳥取県埋蔵文化財センター、
鳥取県鳥取地方農林振興局、土地所有者の方々

8. 調査組織は以下のとおりである。

発掘調査主体 岩美町教育委員会

教育長 大黒 啓之

調査員 中島 伸二（岩美町教育委員会事務局職員）

調査指導 鳥取県教育委員会事務局文化課、鳥取県埋蔵文化財センター

事務局 岩美町教育委員会事務局生涯学習課

作業従事者

（大谷地区）

日比重行、澤 延美、澤 紀嘉、田村数子、小島町枝、中瀬新一
川部 勉

（岩井地区）

沢 岩市、仲 廣満、澤 和夫、西垣貞夫、澤 善己、芳尾寿和
浜田仁美、福田一矢、日下部晃司、中島充成、高橋 智

本文目次

第1章 発掘調査の経緯	1
第2章 遺跡の位置と環境	1
第3章 調査の概要・結果	
1. 大谷地区試掘調査	4
2. 岩井地区試掘調査	6

挿図目次

第1図 岩美町遺跡分布図	3
第2図 大谷地区試掘調査地位置図	5
第3図 大谷地区試掘トレンチ配置図	5
第4図 岩井廃寺関連礎石等実測図	6
第5図 遺跡付近字名図	7
第6図 岩井地区試掘調査地位置図	10
第7図 岩井地区試掘トレンチ配置図	10
第8図 岩井地区トレンチ平面・断面図	11
第9図 岩井地区出土遺物実測図（軒丸瓦）	14
第10図 岩井地区出土遺物実測図（軒丸瓦、鴟尾、平瓦）	15
第11図 岩井地区出土遺物実測図（平瓦、丸瓦）	16
第12図 岩井地区出土遺物実測図（平瓦、丸瓦）	17
第13図 岩井地区出土遺物実測図（土器類）	18

図版目次

図版1	大谷地区調査地全景、岩井地区調査地全景、 大谷地区横穴式石室検出状況
図版2	岩井地区第1トレンチ軒丸瓦検出状況、岩井地区第8トレンチ瓦だまり検出状況、 岩井地区第14トレンチ完掘状況、国指定史跡「岩井廃寺塔跡」
図版3	岩井地区発掘調査地出土遺物
図版4	岩井地区発掘調査地出土遺物
図版5	岩井地区発掘調査地出土遺物

第1章 発掘調査の経緯

今回の調査は、本町の大谷地区及び岩井地区の2地域において、それぞれ開発事業に伴い行った。

大谷地区においては、平成12年8月、鳥取県鳥取地方農林振興局から県営ほ場整備事業計画に伴い、埋蔵文化財保護と工事との調整についての協議依頼があった。本町教育委員会は、過去の資料を調査するとともに、現地に埋蔵文化財が所在するかどうか踏査を実施した。踏査の結果、遺構の所在が予測される地形を数カ所において確認したことから、遺跡の存在の有無、範囲確認、性格の把握を目的とした試掘調査を実施することとなった。

また、岩井地区においては、地区のコミュニティーセンターの建設計画に伴って試掘調査することとなった。建設予定地は、旧岩井小学校舎の跡地であり、その南側（国道9号線側）には昭和6年11月26日に国指定史跡となっている「岩井廃寺塔跡」、通称「鬼の碗」と地元から呼ばれている巨大な心礎石が横たわっている。この心礎石に関連した岩井廃寺の発掘調査は、昭和61年に農地の区画整備事業に伴い行われたが、遺構の検出においては、期待どおりの成果が得られなかった。今回の試掘調査においては、この岩井廃寺の範囲を確認することを大前提として調査に取りかかった。特に岩井廃寺は、国指定史跡と関連しているので、慎重な調査を図るべく、独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所及び鳥取県埋蔵文化財センターよりご指導をいただき調査を実施した。

第2章 遺跡の位置と環境

岩美町は、鳥取県の最も東寄りに位置する。北は日本海に面し、三方を山地に囲まれる。南側は国府町、西側は福部村に隣接する。東側は、兵庫県美方郡浜坂町および温泉町と県境を隔てて接する。町内には、標高1000mの河合谷高原より発する蒲生川が北西に貫流し、その南西側には、同じ山より発した小田川が北流している。その流れは途中で合流し、日本海へ注ぐ。二つの河川の周辺には、肥沃な谷平野、沖積平野が形成されている。

岩美町の海岸線は、変化に富み、山陰海岸国立公園に指定されている。羽尾岬、陸上岬が海に突き出し、その間に美しい弧を描いた砂浜が形成されている。網代、田後港という良港にも恵まれ、漁業の町としても良く知られているところである。

岩美町の歴史の幕開けは、縄文時代より始まる。従来、鳥越の沢尻（50）で条痕地、無文地を呈した十数片の縄文土器が採取されたほか、岩井廃寺跡（47）より縄文晩期の深鉢が、そして山ノ神5号墳（55）の発掘調査時に、縄文前期の土器片や石鏃、石斧の出土が知られていた程度であった。

平成11・12年度に調査した新井三嶋谷遺跡（67）に於いて、縄文時代後期前半の土器片を伴

った長径1.43 m、短径1.34m、深さ0.4mを測る播り鉢状のやや歪な円形の土抗を検出しており、岩美町内では初めての遺構検出例となった。土器片の他、多数の安山岩系の石材・剥片、そして黒曜石の突帯文土器を検出している。このように確実に縄文時代の遺跡は増加している。

弥生時代に入ると、蒲生川下流域の沖積平野にいくつかの遺跡が見られる。集落跡として昭和40年代の河川改修の際、川底より弥生中期～後期の壺・甕・器台などの土器片の他、大型蛤刃石斧・石包丁・砥石等の石製品を出土した新井遺跡(70)が知られている。また、新井遺跡に隣接した山腹に所在する上屋敷遺跡(69)からは、流水文銅鐸を出土している。この銅鐸は、近年調査が行われた島根県賀茂岩倉遺跡出土の31・32・34号銅鐸と、また以前より知られていた神戸市桜ヶ丘3号銅鐸とともに同じ鋳型で造られた兄弟銅鐸であることが判明し話題となっている。

上屋敷遺跡から南東2kmにある新井三嶋谷遺跡では、後期初頭に造営されたと考えられる貼石の墳丘墓(新井三嶋谷1号墳丘墓)を1基、また、時期を確定しがたいが、ほぼ同時代に造られたであろう方形の墳丘墓(新井三嶋谷2号墳丘墓)を1基確認している。新井三嶋谷1号墳丘墓は、この時期の墳墓の中では、全国的にも最大級のもので、南北約26.5m、東西約18m、高さ最大約3mを測る。墳丘には拳大から人頭大によりやや小振りの石を貼り付け、一部石列が認められた。この発見により、前述した新井遺跡や上屋敷遺跡との関連性が窺われる。

新井三嶋谷遺跡の西方に位置する丘陵尾根上に存在した新井32号墳下(68、消滅)からは、弥生時代中期と推定される木棺墓2基を検出している。これに隣接した新井51号墳(68、消滅)からは、弥生時代後期の甕・器台の口縁部を検出し、墳丘墓の存在が想定される。

その他、小田川下流域の上太夫谷遺跡(8)からは、弥生時代後期と推測される竪穴住居跡・木棺墓が検出されている。

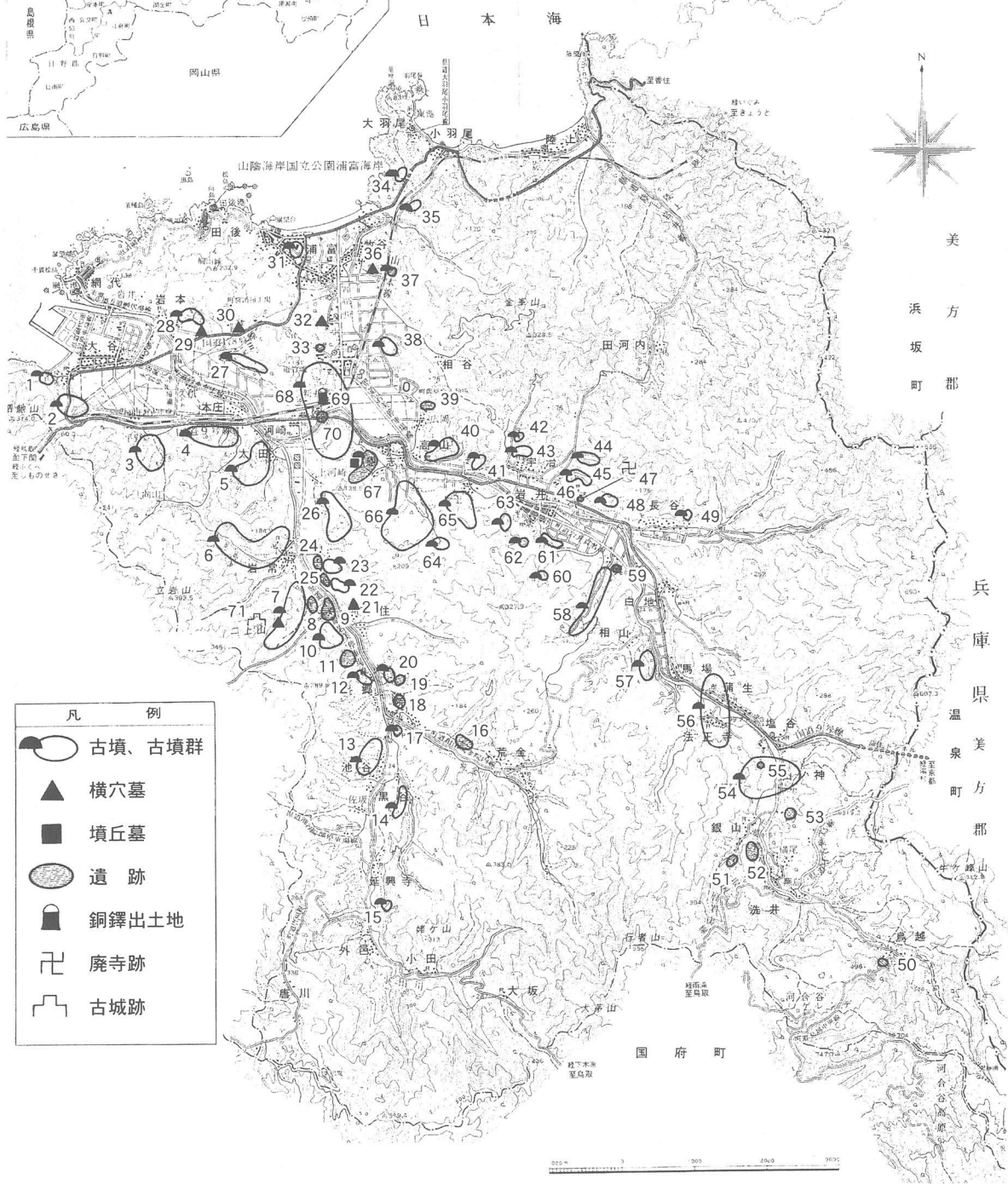
古墳時代になると、弥生時代に展開した沖積平野の生産基盤に加え、山間部の開拓も進み、町内各地に古墳の造営がみられる。現在、約450基の古墳と約20基の横穴墳が町内に確認されている。その中でも巨大な石室を主体として家型石棺を有する古墳が確認されている高野坂古墳群、小畑古墳群や砂丘地に造営された浦富古墳群などの特色あるものが多い。

古墳時代終末期より奈良時代に入っても依然として古墳の造営は続くが、その中には有力な氏族集団が建立したと思われる岩井廃寺がその存在を知られている。岩井廃寺は、白鳳時代後期の発起寺式の伽藍配置をとったものと考えられている。また、7世紀末には銅が産出されていた小田川上流の荒金集落付近に位置する広庭遺跡では、発掘調査により規格制をもった掘立柱建物群が検出されている。南北朝に入ると、山名氏が因幡支配の戦略的拠点とするため二上山城を築き、戦国期まで機能を果たしていた。この時期には至る所に城砦跡が築かれている。



岩美町全図

縮尺 1:22,000



凡 例	
	古墳、古墳群
	横穴墓
	墳丘墓
	遺跡
	銅鐸出土地
	廃寺跡
	古城跡

- | | | | | |
|------------|-------------|--------------|---------------|-------------|
| 1 弥長古墳 | 16 広庭遺跡 | 31 浦富古墳群 | 46 岩井廃寺下層遺跡 | 61 岩井荒神下古墳群 |
| 2 小畑古墳群 | 17 院内古墳群 | 32 岩美病院裏横穴墓群 | 47 岩井廃寺跡 | 62 岩井南塚古墳 |
| 3 平野古墳群 | 18 院内岡畑遺跡 | 33 新井第1遺跡 | 48 岩井大野古墳群 | 63 岩井奥山古墳群 |
| 4 本庄古墳群 | 19 長郷遺跡 | 34 熊井古墳群 | 49 長谷聖塚古墳群 | 64 恩志奥の谷古墳群 |
| 5 太田古墳群 | 20 長郷猪ノ谷古墳 | 35 牧谷横穴古墳群 | 50 鳥越沢尻遺跡 | 65 坂上古墳群 |
| 6 満願寺谷古墳群 | 21 柿ヶ谷横穴墓 | 36 牧谷横穴墓群 | 51 銀山女郎谷遺跡 | 66 恩志古墳群 |
| 7 高野坂古墳群 | 22 岩常城山古墳群 | 37 牧谷下竹類古墳 | 52 銀山真教寺遺跡 | 67 新井三嶋谷遺跡 |
| 8 上太夫谷遺跡 | 23 岩常猪ノ谷古墳群 | 38 高山上猫山古墳群 | 53 洗井藤助谷遺跡 | 68 新井古墳群 |
| 9 上ミツエ遺跡 | 24 宮の前遺跡 | 39 高山狭間遺跡 | 54 山ノ神古墳群 | 69 上屋敷遺跡 |
| 10 高住古墳群 | 25 福石遺跡 | 40 高山上ノ山古墳群 | 55 山ノ神遺跡 | 70 新井遺跡 |
| 11 東森谷遺跡 | 26 横座古墳群 | 41 恩志寺山古墳群 | 56 蒲生古墳群 | 71 二上山城跡 |
| 12 長郷古墳群 | 27 浦富日ヶ崎古墳群 | 42 宇治姥ヶ谷古墳群 | 57 馬場古墳群 | |
| 13 池谷古墳群 | 28 岩本古墳群 | 43 宇治宮下屋敷古墳群 | 58 真名古墳群 | |
| 14 池谷粉山古墳群 | 29 岩本横穴墓群 | 44 宇治市浜衛谷古墳群 | 59 真名遺跡 | |
| 15 延興寺城山古墳 | 30 坊谷横穴墓群 | 45 岩井宮の谷古墳群 | 60 岩井太郎右エ門古墳群 | |

第1図 岩美町遺跡分布図

第3章 調査の概要・結果

1. 大谷地区試掘調査

調査地点 岩美郡岩美町大字大谷字岩崎、岡畑

調査期間 平成13年4月11日～5月2日

調査面積 118.5m²

調査概要 当初、過去のデータにより、平野2号墳が工事予定地内に所在していることを想定していたが、踏査を実施した結果、予定地内には存在しないことが判明した。しかし、踏査から工事予定地内の北東及び南東の山裾部に、石室らしき石組がみられ、山頂部は集落跡とも考えられる平坦地となっていた。

これらをもとに遺構と予測される地形にトレンチを合計で11本設定し、遺構及び遺物の確認を行った。

その結果、第8トレンチの南側に横穴式石室の天井石を検出し、その部分の表採箇所を清掃したところ、自然の植生によって崩れてはいるが石室の石組を確認した。

なお、他のトレンチからは遺構、遺物の所在について確認されなかった。

〈大谷地区トレンチ一覧表〉

トレンチ No	規 模 (m)	面 積 (m ²)	検 出 遺 構	出 土 遺 物
T 1	2 × 7	14	な し	な し
T 2	2 × 7	14	〃	〃
T 3	2 × 6	12	〃	〃
T 4	2 × 6.5	13	〃	〃
T 5	2 × 6	12	〃	〃
T 6	2 × 4	8	〃	〃
T 7	2 × 5.5	11	〃	〃
T 8	1.5 × 5	7.5	横穴式石室	〃
T 9	2 × 4	8	〃	〃
T 10	2 × 5	10	〃	〃
T 11	2 × 4.5	9	〃	〃



第2図 大谷地区試掘調査地位置図



第3図 大谷地区試掘トレンチ配置図

2. 岩井地区試掘調査

岩井地区においては、地区のコミュニティーセンターの建設計画に伴って試掘調査することとなった。建設予定地内には、国指定史跡となっている「岩井廃寺塔跡」(昭和6年11月26日指定)に関連した岩井廃寺跡の分布が想定されるため範囲確認等を目的とした発掘調査を実施した。

岩井廃寺塔跡

(1)所在地 鳥取県岩美郡岩美町大字岩井字大野138番地

(2)国史跡指定年月日 昭和6年11月26日

(3)概 要〔岩井廃寺跡発掘調査報告書(昭和61年発行)より〕

i) 位 置

岩美郡岩美町宇治の東南800mに式内社御湯神社の社叢がある。この社叢の南に神社の参道をはさんで東に大野、西に弥勒堂の地名をもつ台地がある。現在、この台地は旧岩井小学校の跡地であり、参道の東に校舎が建っていたが、小学校統合後には、校舎を解体し、今は平地となっている。また、西はグラウンドであり、現在でも利用されている。

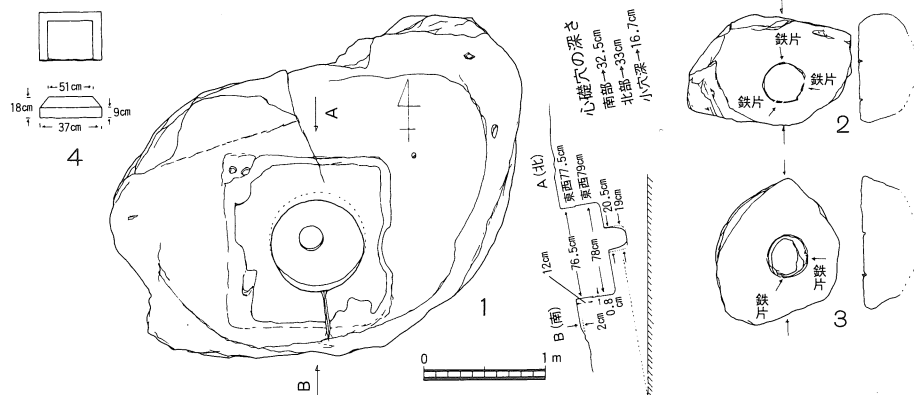
伽藍配置があったといわれるのはこのあたりで、校舎の玄関前に俗に「鬼の碗」と称する巨大な塔心礎が残っている。岩井廃寺塔跡として史跡に指定されているのはこの塔心礎のある一角である。

ii) 塔心礎

塔心礎は、東西の長径3.64m、南北2.36m、厚さ1m余の凝灰岩の巨石である。この礎石は南側が沈み、南縁の高さは、地面から約0.55mで、北側は露出して裏側を見せるばかりになり、したがって上面は南に約10度傾斜している。この傾斜している塔心礎の上面には高さ約3cm、1辺の長さ1.4cmの正方形の柱座が造り出され、その中央に心柱をすえた径77.5cm、深さ32.7cmの円孔と、更にその底に径20cm、深さ14.2cmの仏舎利納入の円孔を穿っている。

柱座の造り出しは、大化の改新前後は円形であったが、その後時代の下るにつれて方形座となり白鳳時代末に多くみられるようになったこと、また塔心礎の円孔は飛鳥時代～白鳳時代は三重孔式が流行し、白鳳時代には二重孔式が多く、飛鳥、白鳳、奈良時代を通じて一重孔式が行われている点、これらの分類に従うと岩井廃寺の場合とともに白鳳時代の形式に属する。

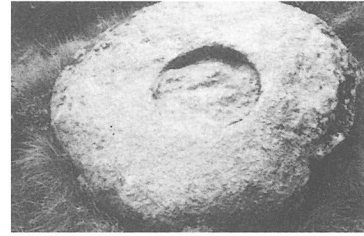
更に礎石の大きさについてみると、奈良時代以前のものは一般に巨石を用い心柱も太く、したがって柱座の径も比較的大きく岩井廃寺の礎石もこの条件を具備している。



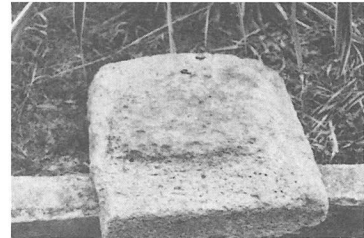
第4図 岩井廃寺関連礎石等実測図



岩井廃寺塔心礎石



礎石



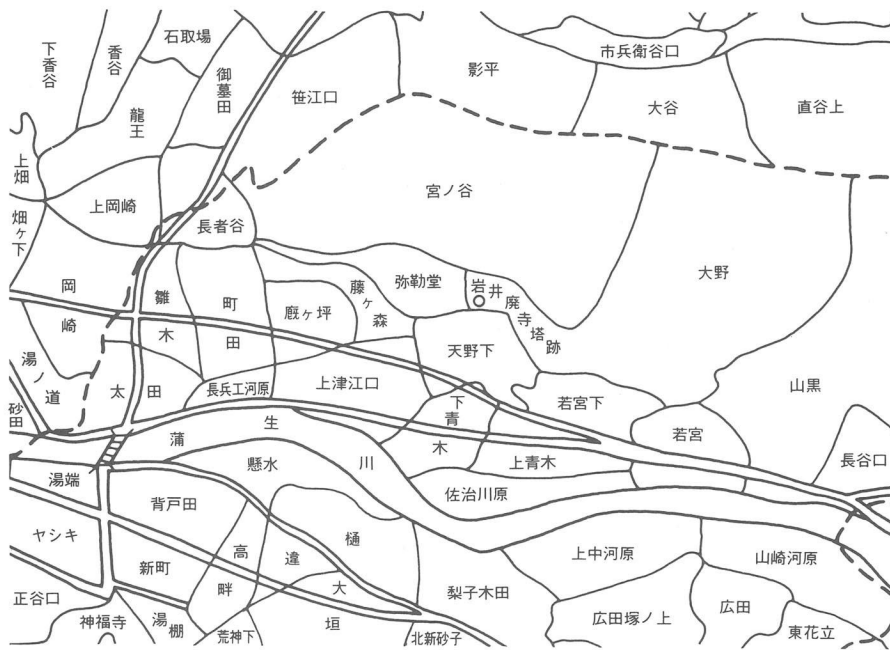
層塔屋根部

岩井廃寺についての考察

寺跡については、塔心礎の位置を基にし、北に山を負う周辺の地形と伽藍に関係ある地名(弥勒堂、大門)並びに古瓦の出土状況等に照応するよう堂字を仮りに配置すれば、その年代が塔心礎や出土瓦の様式とも一致する白鳳時代に広く行われた法起寺式伽藍を想定することができる。

勿論このような伽藍がこのように由来する記録はないが、「和名抄」に大野や宇治の名があり、延喜式に御湯神社のあること、また近くに山崎の地名があって、因幡の官道筋に当たっていたことも推測されることなどを思えば、この地方が早くから開けて巨濃郡の中心に位していたことは明らかである。

なお、伽藍は平安時代に入っても引き続き存続していたことは出土した瓦が立証しているが、弘仁6年(815)この廃寺の本尊木像薬師如来立像が岐阜県岐阜市岩井の延算寺に移ったと伝えられること、並びに律令制の崩壊する平安中期以降、これらの寺院の大半が消滅していった事情と合わせ考えると、この岩井廃寺も平安時代が下るにつれて衰退していったものと思われる。



第5図 遺跡付近字名図

調査地点 岩美郡岩美町大字岩井字大野

調査期間 平成13年8月29日～11月27日

調査面積 273.5m²

調査概要

(1) 準備

岩井廃寺の発掘調査にのぞみ、過去に調査した結果を踏まえ、トレンチを設定することとした。まず、塔心礎石から磁北に向かって第1トレンチから第5トレンチを設定し、これを南北の軸として、東西南北を方眼に分割した。第6トレンチからはこの方眼を基準としてそれぞれのトレンチを設定した。(別紙トレンチ配置図参照)

〈岩井地区トレンチ一覧表〉

トレンチ No	規模 (m)	面積 (m ²)	検出遺構	出土遺物
T 1	6 × 6	36	柱 穴、 整形区画跡	瓦、弥生土器、 須恵器
T 2	3 × 6	18	整 地 層	瓦
T 3	3 × 6	18	整 地 層	瓦、須恵器
T 4	3 × 5	15		
T 5	3 × 6 +1 × 2.5	20.5		
T 6	2 × 6 +1.5 × 6	21		瓦
T 7	15 × 3 +7 × 1 +1 × 19	71	柱 穴	瓦、弥生土器 土師器、須恵器 鷗尾(須恵器製)
T 8	3 × 3 +1 × 5	14	整形区画跡 瓦だまり	瓦、弥生土器 土師器、須恵器
T 9	3 × 3 +1 × 15	24		瓦、須恵器
T 10	3 × 3	9		
T 11	1 × 6	6		
T 12	1 × 3	3	溝	
T 13	1 × 6	6	溝	
T 14	1 × 2	2	整 地 層	弥生土器、須恵器
T 15	1 × 8	8		瓦
T 16	1 × 2	2		

(2) 経 過

まず、第1トレンチの試掘に取りかかった。このトレンチは塔心礎に最も近いので、塔に関連する遺構が検出される期待があった。地表から約30～40cm掘り下げたところに、学校建設時に整地したものであると思われる黄褐色粘質土の層が検出された。他のトレンチにもこの整地層が見られるが、この層より下面においてのみ遺物が検出された。検出遺構においては、柱穴が心礎石に近い場所で数カ所検出されたが、並び方に規則性がないことや弥生土器が検出されたことから、寺院建立以前のものではないかと推測される。また、第1トレンチの東端に地山が整形されたような箇所が現れ、整形区画の最も深い位置（地表から約150cm）から軒丸瓦が検出された。

第1トレンチの北方向に第2～5トレンチを設定した。第2・3トレンチからは、瓦等の遺物が出土した。また、トレンチ断面から層が何重かに整地されていた。

第4・5トレンチからは、遺物の検出はなかったが、殻石が溝状に体積している箇所が存在した。

第6トレンチは、第3トレンチ断面の整地層の北端が建物（金堂）基壇の北端と想定し、そのラインを東へ追うトレンチを設定した。瓦は出土したが、整地層と地山とのラインは第3トレンチに近い西側から、約5mの箇所で消滅してしまった。

試掘調査が建物の建築工事に伴って実施しているので、寺の範囲を掴むことを最優先して調査を実施すべき体育館側（東側）に第7トレンチを設定した。このトレンチで、当時の面が南に向かって深く下がっていることが判明した。また、遺物も多く出土し、柱穴跡を2カ所確認した。

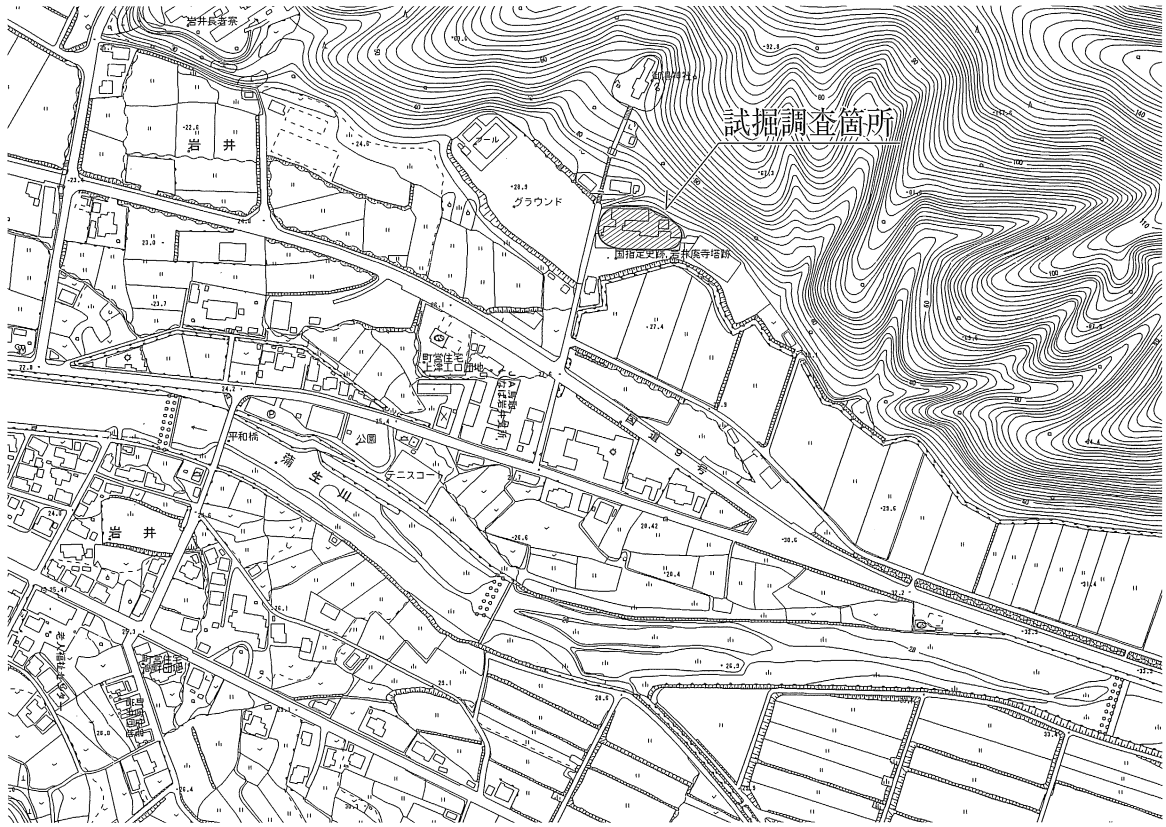
第2トレンチから東に第8～10トレンチを設置したが、共通して黄褐色粘質土の整地層を確認し、その下層から遺物が出土した。第8トレンチにおいては、瓦だまりを確認し、第1トレンチで検出した整形区画の続きを確認した。また、軒丸瓦を数点と須恵器で造られた鴟尾（図10.Po13・14の欠片が2点検出された）。

北側の調査においては、第11～13トレンチを設置し掘り下げを行った。北側のいずれのトレンチにも遺物は見られなかったが、第11・12トレンチには黒色土の落込が断面に見られた。

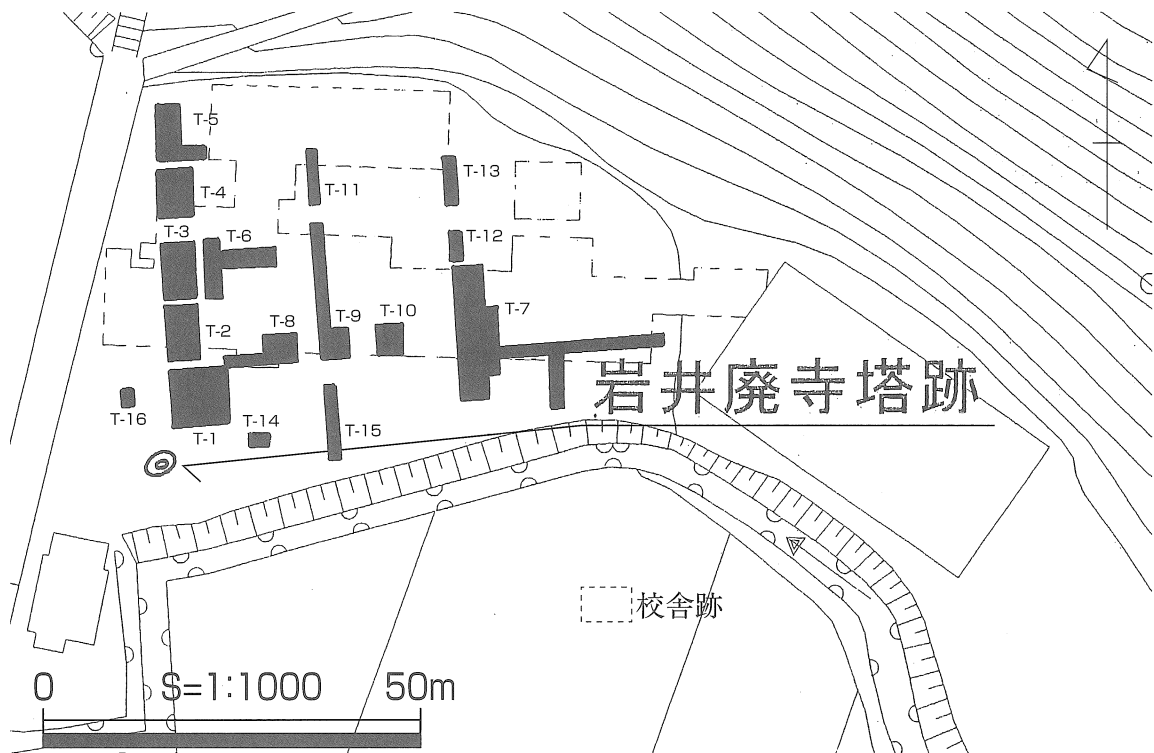
最後に、南側に第14～16トレンチを設置し、掘り下げを行ったところ、第14・15トレンチから遺物が確認された。第14トレンチにおいては、塔の心礎石に最も近い場所であり、寺の構造を明確に判断するため設定した。断面の層は5重に整地されたように見られた。

(3) 結 果

今回の調査では、岩井廃寺を「法起寺式」の伽藍配置と想定して調査を実施していった。塔心礎に近い第1・8・14トレンチをはじめ、数本のトレンチから遺構の確認がみられた。しかし、校舎の造成などが原因となり、トレンチの所々に、掘削された箇所が見られ、かなりの部分で遺構が破壊されており、確認された遺構が寺に関連したものであるか明確には解らなかった。しかし、瓦などの遺物出土状況から確認された遺構は何らかの関連性を持っていると考えられる。

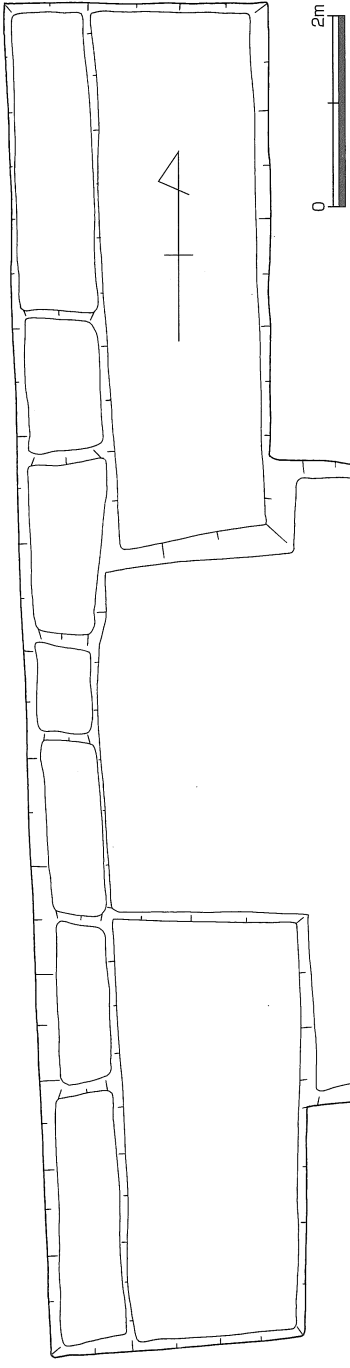


第6図 岩井地区試掘調査地位置図



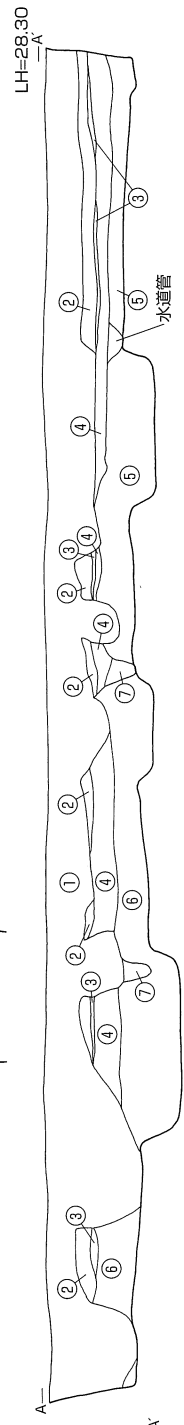
第7図 岩井地区試掘トレンチ配置図

T-7 (S=1:80)

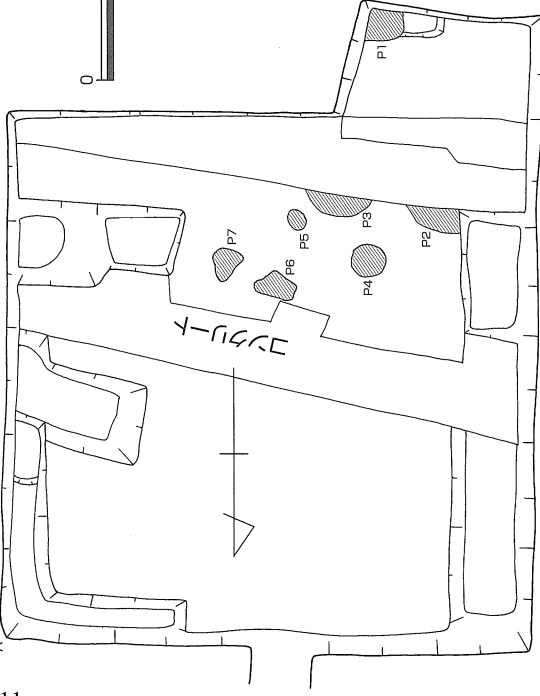


第11トレンチ土層断面図

- ① 表土
- ② にぶい黄褐色粘質土
- ③ 黄褐色粘質土
- ④ 暗褐色粘質土

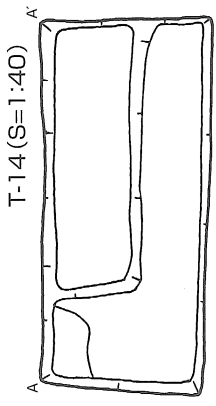
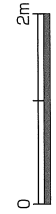


T-1 (S=1:80)



第14トレンチ土層断面図

- ① 暗褐色粘質土
- ② 明褐色粘質土
- ③ 黒褐色粘質土
- ④ 黒褐色粘質土 (③より濃い)
- ⑤ 明褐色粘質土

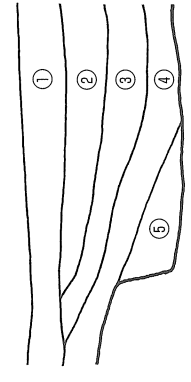


T-14 (S=1:40)

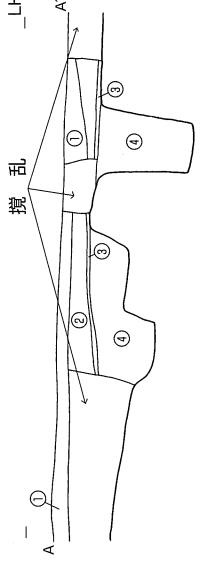
第7トレンチ土層断面図

- ① 表土
- ② 褐色粘質土
- ③ 黄褐色粘質土
- ④ 暗褐色粘質土
- ⑤ 地山
- ⑥ 黒褐色粘質土
- ⑦ 黒色土

LH=28.70m



LH=28.70m



第8図 岩井地区トレンチ平面・断面図

出土遺物（軒丸瓦の分類）

軒丸瓦は、これまでに5種類報告されている。今回、新しい種類の軒丸瓦を検出し、合計で、6種類に分類されることとなった。

時期については、大きく次のようになると推定される。I・II類は白鳳末～奈良初期、III類は、奈良末期頃、IV類は、奈良末～平安時代、V類は、I・II類と同時期かそれよりも古い時代のものと考えられる。

今回の調査では、I・II類、V類に属する軒丸瓦を検出した。

I類 単弁十二葉蓮華文軒丸瓦 (図8、Po 1～Po 5)

弁は細く、弁間に子葉を表現している。中房は低く、1+8の蓮子を配す。周縁は高く、三重圏文をめぐるが全周せず、下半は一重圏になる。瓦当裏面にも周縁を作る。胎土は粗く、砂流を含み、焼成は軟質である。

II類 単弁十二葉蓮華文軒丸瓦 (図8.9、Po 6～Po 11)

花卉はI類と同じであるが、中房が高く、連子の数は1+7である。周縁は高い直立縁。瓦当裏面には周縁がない。瓦当の直径はI類に比べてやや大きい。

III類 単弁八葉蓮華文軒丸瓦

弁は広く、内に子葉を持つ。弁端は、切込みを入れ、反転している。中房の径は大きく、二重圏で表現しており、連子の数は1+8である。周縁は低く、線鋸歯文をめぐらす。瓦当全体が平面的である。

IV類 単弁十六葉蓮華文軒丸瓦

弁は細く、弁端は丸みをおびている。中房は高く、連子の数は1+7である。弁の外側に圏線がめぐり、外区に珠文を配している。周縁は無文の直立縁である。瓦当裏面にも珠文をつくるものとそうでないものがある。

V類 単弁八葉蓮華文軒丸瓦 (図9、Po 12)

弁は広く、弁間に子葉を表現している。花卉端は反り、中央に稜線がある。中房はやや高く、連子の数は1+8+10である。周縁は高く、素縁である。

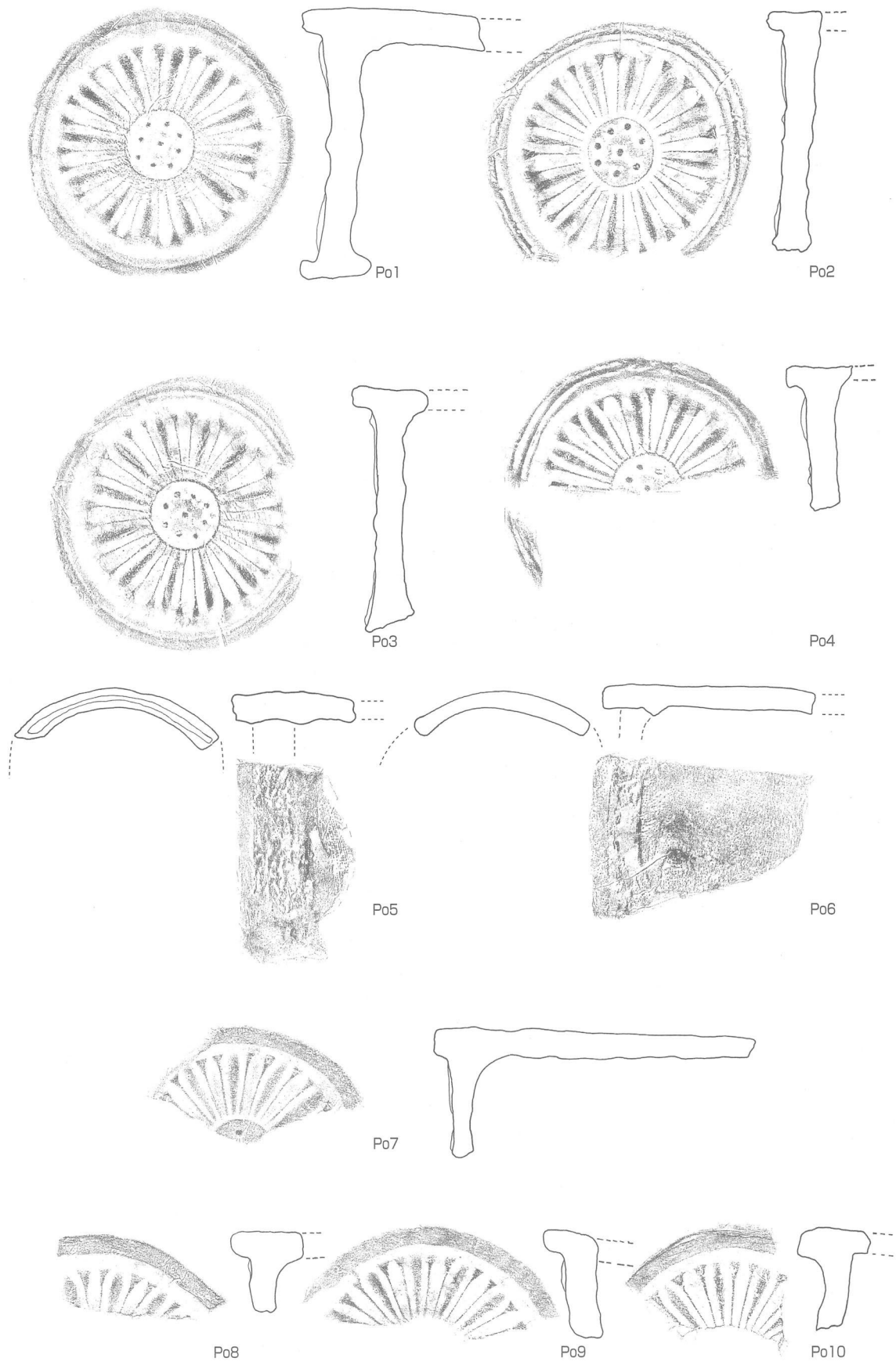
軒 丸 瓦 分 類 表

分類番号	建物番号	直径	内 区					外 区		周 縁			出土点数
			中房弁	連子数	弁区系	弁幅	弁数	幅	文様	幅	高	文様	
I	Po1 ~ Po5	179	48	1+8	140	14	T12			20	15	J3	5
II	Po6 ~ Po11	188	80	1+7	146	16	T12			19	13		6
III		191	79	1+8	80	42	T 8			17	3	LV (26)	
IV		177	39	1+7	108	14	T16	20	S(32)	14	7		
V	Po12	148	41	1+8 +10	105	22	T 8			15	12		1

(注) T：単弁、J：重圏文、LV：線鋸歯文、S：珠文（ ）：推定、単位はmm

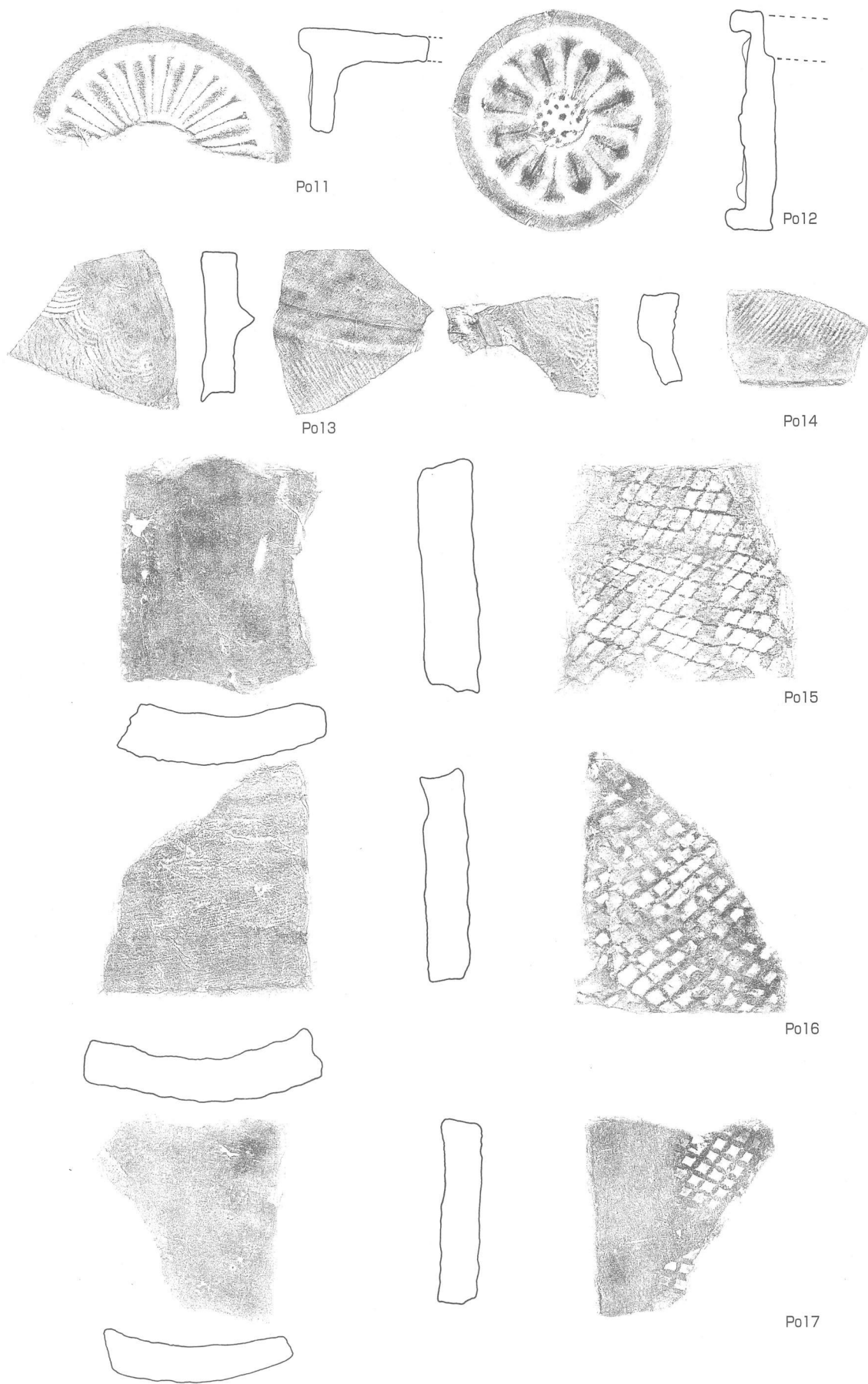
報 告 書 抄 録

ふりがな	いわみちょうないいせきはつくつちょうさほうこくしょ							
書名	岩美町内遺跡発掘調査報告書Ⅵ							
副書名								
巻次								
シリーズ名	岩美町文化財調査報告書							
シリーズ番号	第25集							
編集者名	中島 伸二							
編集機関	岩美町教育委員会							
所在地	鳥取県岩美郡岩美町大字浦富675番地1							
発行年月日	西暦2002年3月22日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ ー ド		北 緯 ° / ' / ''	東 緯 ° / ' / ''	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ひらの ごうふん 平野11号墳	とっとりけんいわみぐん 鳥取県岩美郡 いわみちょうおおあざ 岩美町大字 おおたにあざいわさき 大谷字岩崎	31302		35° 33' 41''	134° 18' 21''	2000. 4.11 ～ 2001. 5.2	118.5m ²	大谷地区 ほ場整備 事業
いわいはいじあと 岩井廃寺跡	とっとりけんいわみぐん 鳥取県岩美郡 いわみちょうおおあざ 岩美町大字 あわいあざおおの 岩井字大野	31302		35° 33' 41''	134° 22' 18''	2000. 4.11 ～ 2001. 5.2	273.5m ²	岩井地区 コミュニティ センター 建設
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
ひらの ごうふん 平野11号墳	古 墳	古墳時代	横穴式石室		出土せず			
いわいはいじあと 岩井廃寺跡	寺 院	奈良時代 ～ 平安時代	柱 穴 整形区画跡 溝 瓦だまり 整地層		瓦 弥生土器 土師器 須恵器 鷗 尾			



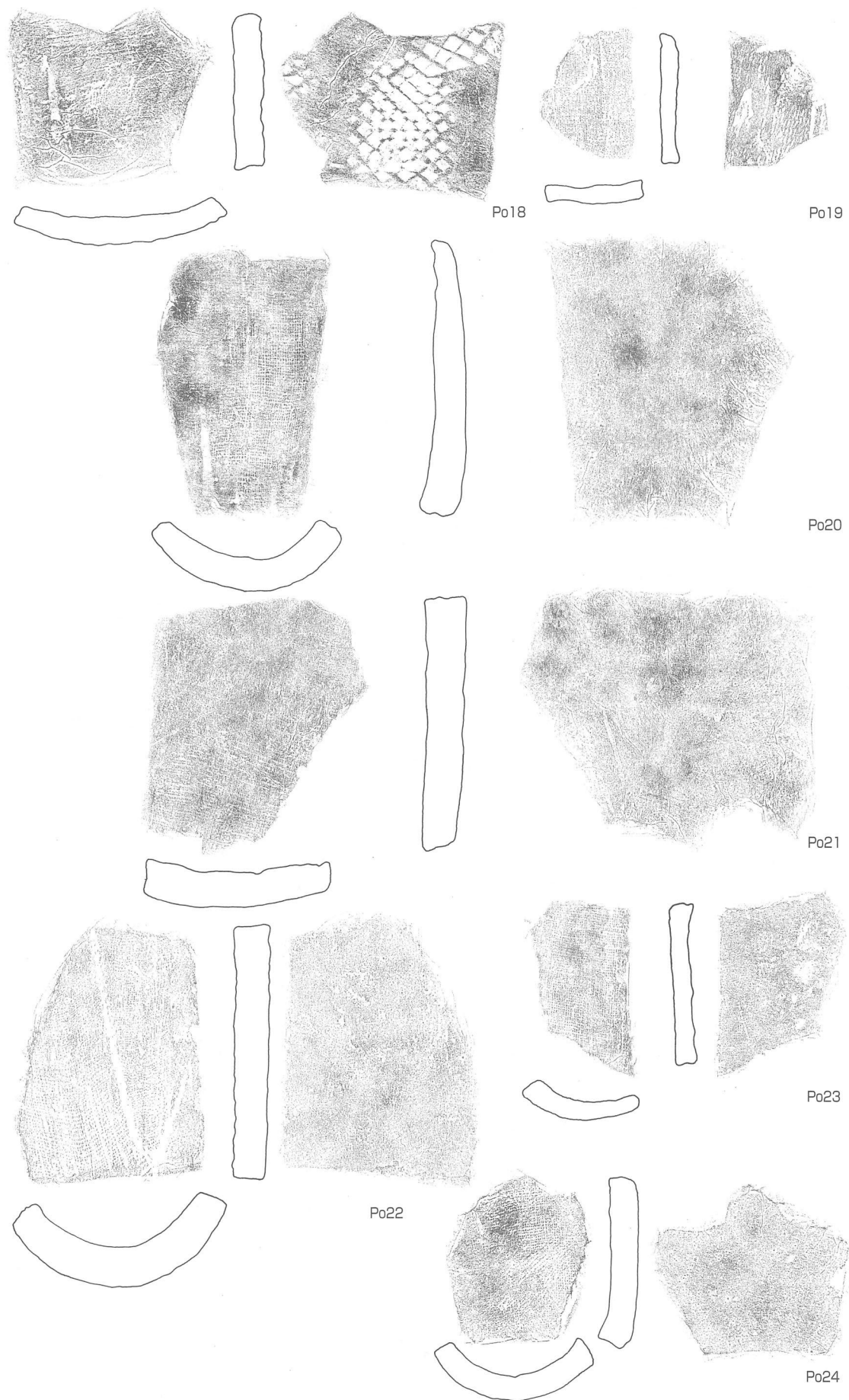
第9図 岩井地区出土遺物実測図(軒丸瓦)

0 S=1:4 10cm



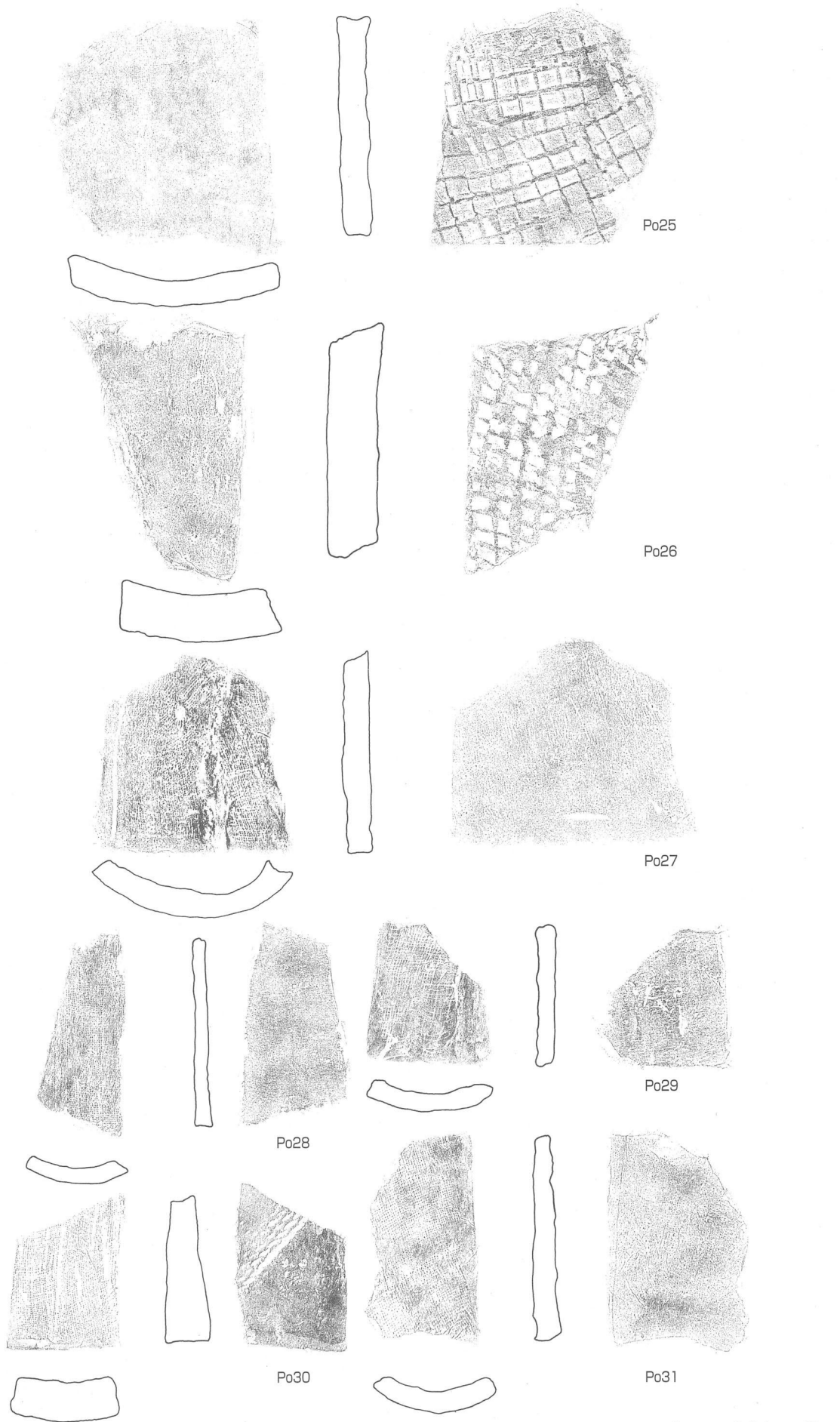
第10図 岩井地区出土遺物実測図(軒丸瓦、鴟尾、平瓦)

0 S=1:4 10cm



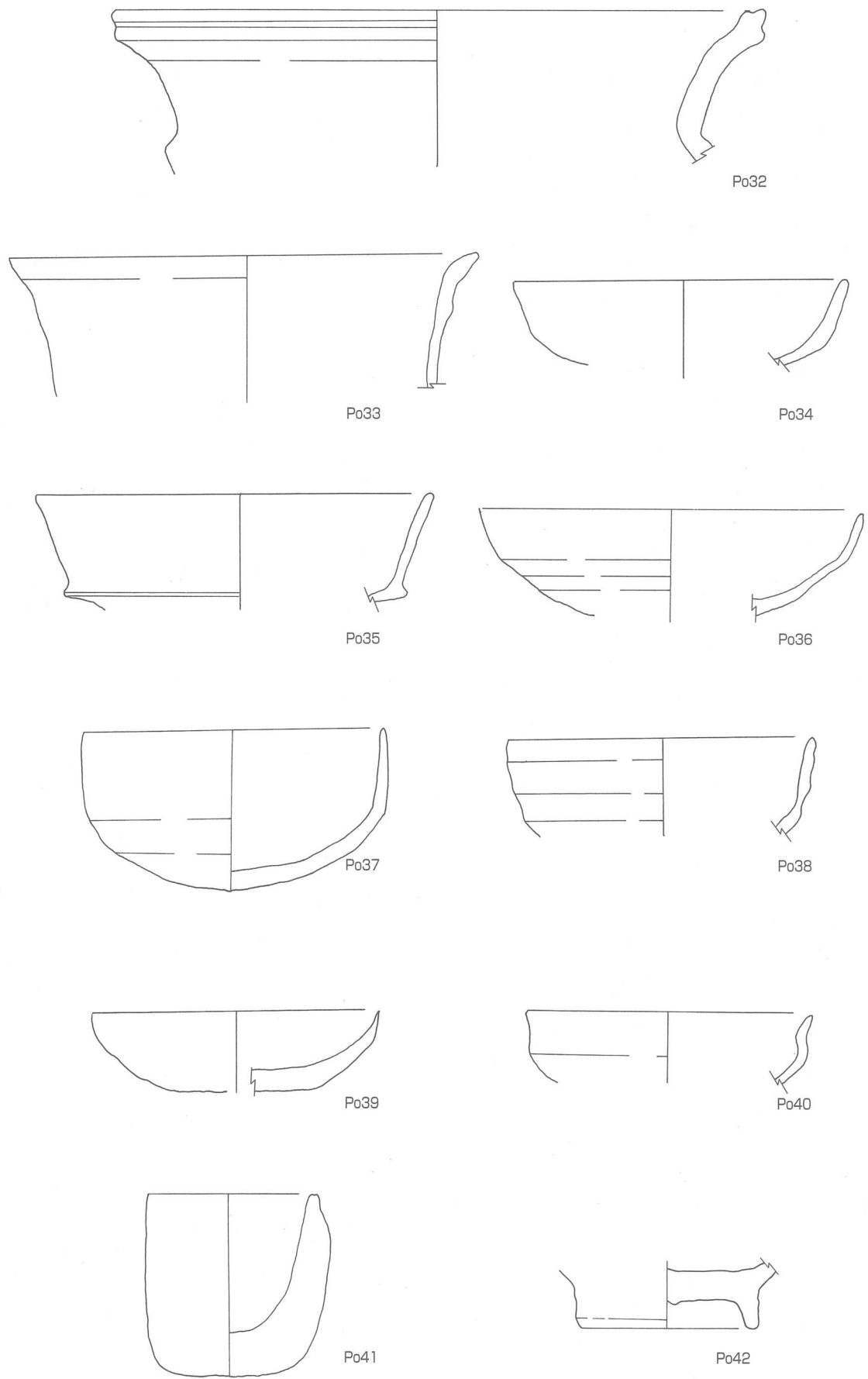
第11图 岩井地区出土遺物実測図(平瓦、丸瓦)

0 S=1:4 10cm



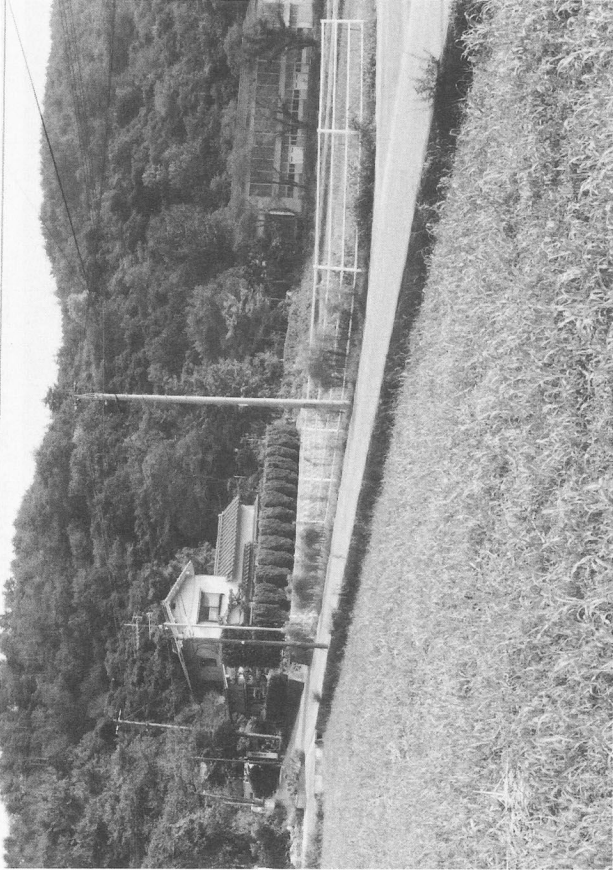
第12図 岩井地区出土遺物実測図(平瓦、丸瓦)

0 S=1:4 10cm



第13図 岩井地区出土遺物実測図(土器類)

0 5=1:4 10cm



岩井地区調査地全景



大谷地区横穴式石室検出状況(西より)



大谷地区調査地全景



大谷地区横穴式石室検出状況(北より)



岩井地区第8トレンチ瓦だまり検出状況



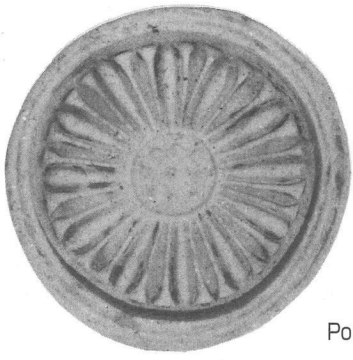
国指定史跡「岩井廃寺塔跡」



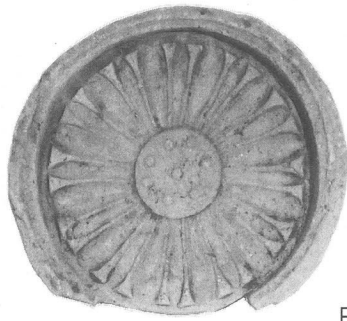
岩井地区第1トレンチ軒丸瓦検出状況



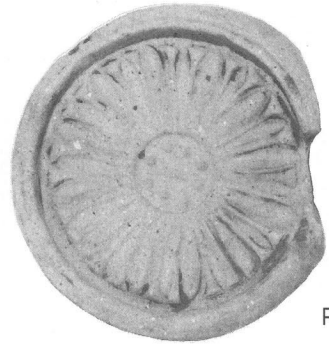
岩井地区第14トレンチ完掘状況(東より)



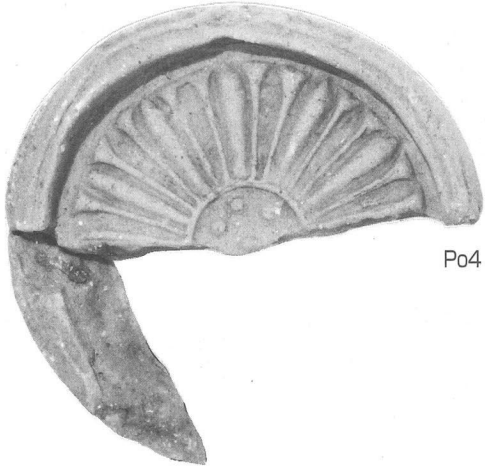
Po1



Po2



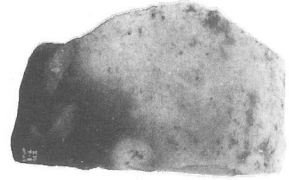
Po3



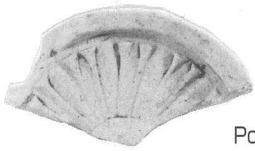
Po4



Po5



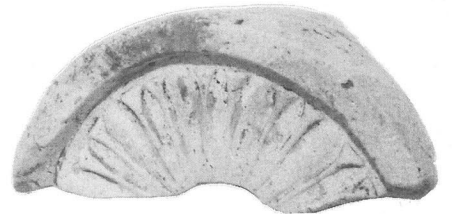
Po6



Po7



Po8



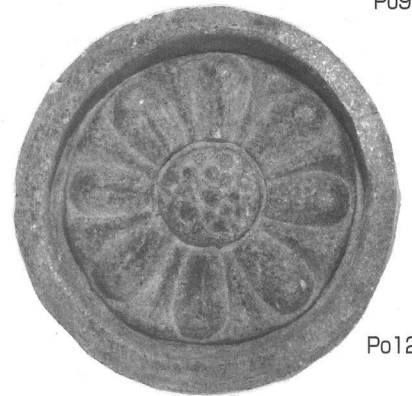
Po9



Po10



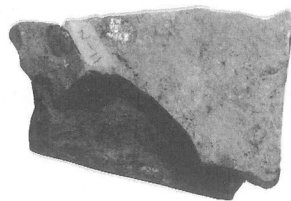
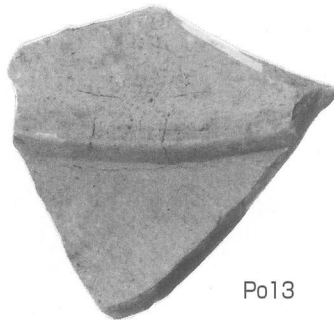
Po11



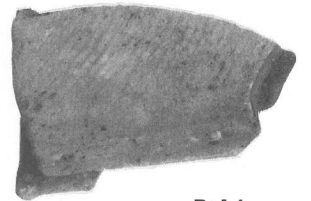
Po12



Po13

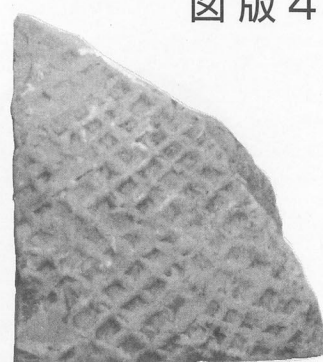
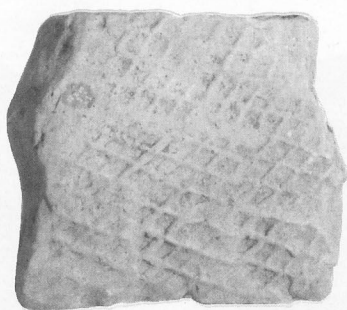


Po14





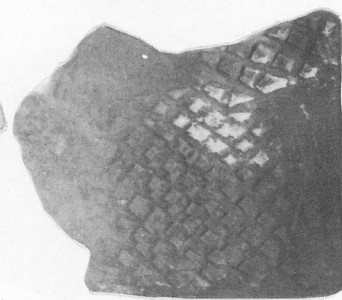
Po15



Po16



Po17



Po18



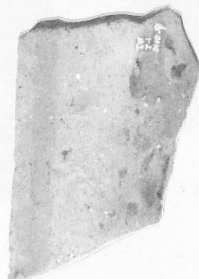
Po19



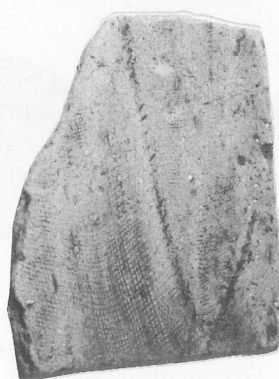
Po20



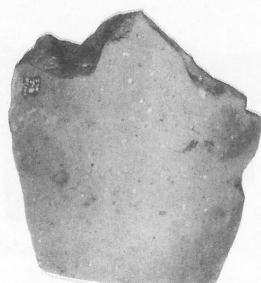
Po21



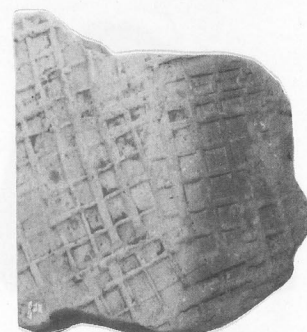
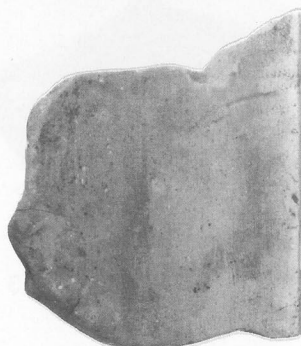
Po22



Po23



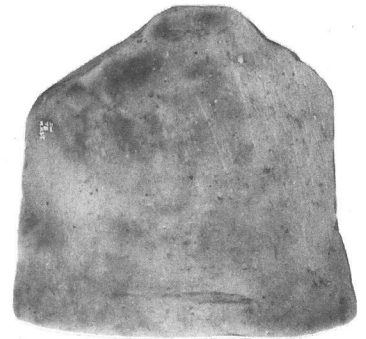
Po24



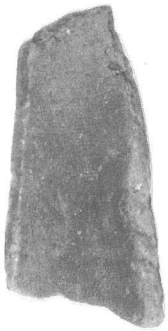
Po25



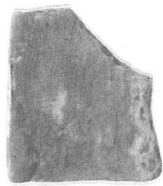
Po26



Po27



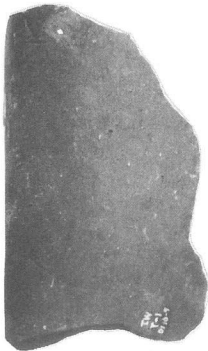
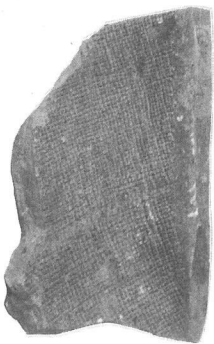
Po28



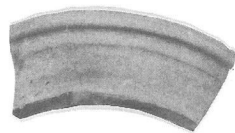
Po29



Po30



Po31



Po32



Po33



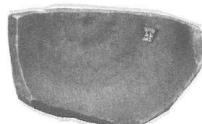
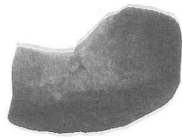
Po34



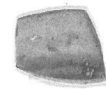
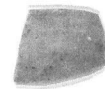
Po35



Po36



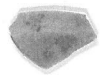
Po37



Po38



Po39



Po40



Po41



Po42

岩美町文化財調査報告書 第25集

岩美町内遺跡発掘調査報告書Ⅵ

平成14年3月22日 発行

編集発行 岩美町教育委員会
鳥取県岩美郡岩美町大字浦富675番地
TEL(0857)73-1302

印刷 日ノ丸印刷株式会社
鳥取県鳥取市寿町915番地
TEL(0857)22-2248